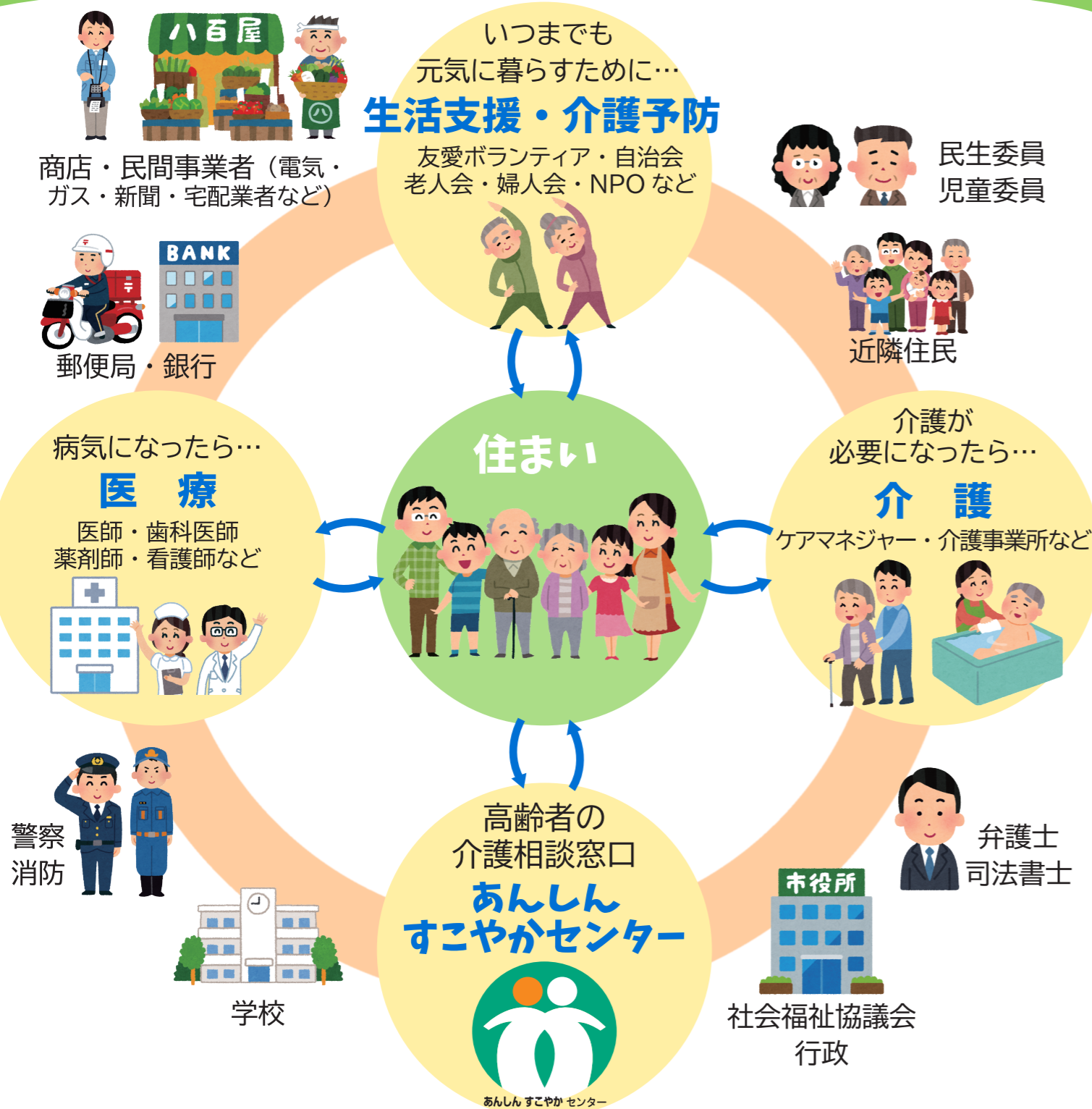


みんなで支え合う 地域の輪

高齢者の住み慣れた「住まい」を中心に、「医療」や「介護」だけでなく「生活支援・介護予防」を含めた生活を助け合い、支え合うことができる地域をみんなで目指しましょう。



『地域ケア会議』を ご存じですか？

～みんなで高齢者が暮らしやすいまちに～

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域のなかでできることを話し合う場を「地域ケア会議」と呼びます。

「地域ケア会議」は平成 27 年度から介護保険法に位置付けられ、あんしんすこやかセンターまたは神戸市が開催します。



担当のあんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）



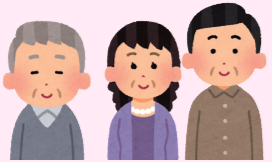







あんしんすこやかセンター

～地域ケア会議とは～

どんな会議？ 開催場所は？

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるように、1人では解決できない困りごとをみんなで解決していくために話し合う場で、地域の集会所や地域福祉センターなどで開催しています。

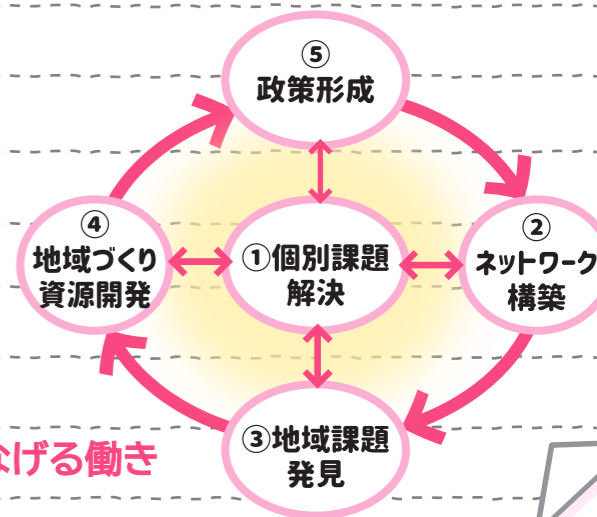
参加者は？

高齢者本人・家族 	近隣住民・民生委員 	地域団体（住民組織）ボランティア 	医療・介護の専門職 
警察・消防 	地元商店・銀行・郵便局 	弁護士・司法書士 民間事業者（電気・ガス・新聞・宅配業者など） 	社会福祉協議会 行政・学校 市役所  など

地域ケア会議の5つの働き

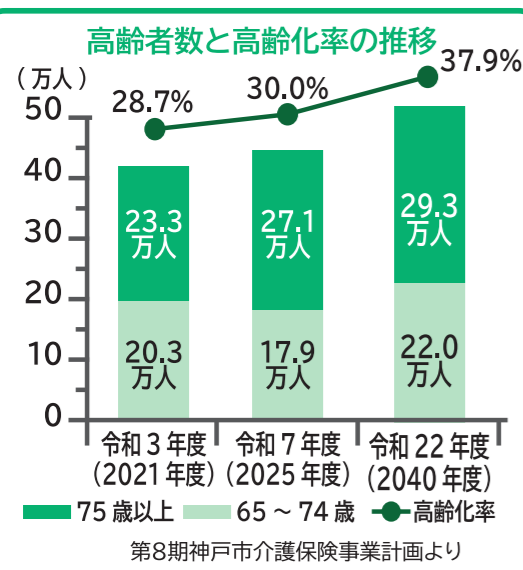
地域ケア会議には5つの働きがあって相互に関係し合っており、すべては地域で暮らす高齢者の困りごとの解決へとつながっていきます。

- ① 高齢者の困りごとの解決方法を考える働き ※地域ケア会議では個人情報を守られます。
- ② 困りごとに対して、地域みんなで協働してネットワークをつくりお互いの役割を明らかにする働き
- ③ 同じような困りごとを抱えた高齢者がいないか地域の課題を発見する働き
- ④ 地域に必要な資源は何かを明らかにして地域づくりを行う働き
- ⑤ 会議を積み重ねていき、地域に必要な取組みから、神戸市の新たな政策につなげる働き



～なぜ地域ケア会議が必要？～

【神戸の“今”と“これから”】



- ・65歳以上の高齢者人口は、令和7年（2025年）には45万人となり、約3人に1人が高齢者となる見込み。
- ・令和22年（2040年）には75歳以上の人口が29万人を超え、介護が必要な方が増える可能性が高い。
- ・今後、一人暮らしや認知症の高齢者が増える可能性が高い。

【地域での困りごと】

退職してから家に閉じこもりがちになってしまった… 坂道が多く買い物も大変だ	気軽に相談できる相手がいなくて、ひとりで悩むことが多くなったわ
近隣で、道に迷ったかのように歩いている高齢者をよく見かけるが、どう声をかけたらいいのか…	ゴミ出しが大変そうな高齢者を見かけるけど何か手伝ってあげられることはないかしら

みなで高齢者が暮らしやすいまちを目指して話し合いましょう！